



◎平成23年度活動実績

平成23年度の各種行事も局指導普及課や東京事務所をはじめとした関係機関のご指導やご支援により無災害で実施できました。厚く御礼申し上げます。参加した員数は次のようになりました。

森林カレッジをはじめとする「公募イベント」では、14回、4百人の参加を得ました。小中学校を対象とした依頼イベントでは、参加校46校、延べ2千人の児童生徒が参加しました。また、各種団体からの依頼イベントでも12回、3百人の参加がありました。

そのほか、多目的ホール愛林館の展示に来館者3千人。センタークラフト室・展示室の来館者が1万2千人。日影沢キャンプ場の利用者は1万人でした。森林インストラクター東京会のふれあい推進委託事業や地元イベント参加行事での参加者は1千人でした。総計では約3万人となりました。これらの機会を通して、林野庁の組織運営や森林・林業を普及啓発して

参りました。平成24年度もなお一層国民の皆さんへの情報発信と施設の有効利用に邁進して参ります。次に、脇役でもイベントを盛り上げ、参加者に感動を生む小道具の1つを紹介し、広範囲にわたる普及を期待します。

◎未利用材を生かした丸太トーチ

当センターでは、高尾山の風倒木や高齢級間伐で発生する端材丸太を活用した丸太トーチを、イベント時に実演し、手短な木材の活用方法として紹介しています。特に寒い時期の屋外イベント時に、お茶を沸かしたり、灯りや暖をとるのに重宝し好評を得ています。

1 丸太トーチの作り方

作り方は極めて容易です。ある程度乾いたスギやヒノキの丸太を使う場所・目的に応じた長さに切ります。次に木口からチェーンソーで十文字に切れ目を入れます。もちろん有資格者に作業をお願いして慎重に行います。片方の木口面は使用後の用途を考えて、ある程度の厚みを切り残します。火は十文字の切れ込みの隙間を通る空気の流れで簡単に燃えるのです。隙間は、チェーンソーの刃の切りしろ

幅が最適です。



切れ目を入れた丸太

2 使い方

極めて簡単です。切れ目を入れた木口面を上にして、たき火の熾き炭を十文字の合わせ目に置きます。それだけで不思議なことに簡単に着火して少しずつ下の方に燃えていきます。下から上に炎が移るのではなく、段々に上から下に燃え移るのです。燃えている時間は太さと長さにもよりますが、太さ30センチの長さ80センチ丸太が3時間程は燃え続けます。この間、ヤカン

を置いて湯を沸かすもよし、鍋やフライパンで料理をするもよし（火加減は手加減で）、闇が深まれば灯明の役割を發揮します。しかも、燃焼中は地面に燃えながら落ちることもなく、熱も地面に伝わらず、場所もとりません。消し炭などの後片付けがいりません。燃え方は、切れ目に沿った部分だけが燃え広がり、最後は中心部へ吸い込む空気の速度が落ちること燃焼が止まってしまいます。最終的には4本の脚状の外縁部と切れ目を入れなかった木口部分が燃え残ります。



燃焼中の丸太

### 4 木製スツールに再利用

使用後の丸太トーチは、木材特有の消し炭が脚の部分や末口部分に残っています。この部分をナタやノミで削り落とし、木口や脚部を電動サンダーや紙やすりで滑らかに仕上げるとオリジナルの木製スツールに変身します。炭の焦げ目や根張りや節など、焼け残った部分の個性豊かな野趣あふれる木製スツールに変わります。焼け残りの節の部分や脚の合わせ部の曲線が微妙に現れ、味わいが出ます。

特に、根張りのある丸太は、元口から切れ込みを入れると脚部が外へ拡がり安定感が出ます。スギ・ヒノキの木香も残り、お手製の家具として、末永く炭素を蓄えたまま使うことになりやすい。各地のイベントなどで手軽なアウトドアグッズとして普及してみませんか。



完成した木製スツール



3月9日、都内のホテルにおいて国際森林年記念「第15回森林は友達! 作文コンクール」の表彰式が行われました。

この作文コンクールは、旧東京分局管内（茨城県から静岡県までの1都6県）の森林管理署、森林管理事務所、高尾森林センター等が行った「森林教室・体験林業」に参加した小学4～6年生を対象に、感じたことを作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、関東森林管理局東京事務所と（社）東京林業土木協会が共催して、毎年度行っているもので、今回は、21団体（小学校19校、団体2）から1,533名の応募がありました。

昨年（2011年）は、国際森林年として世界中で森林の重要性についての認識を高める活動が行われたことから、この作文コンクールも国際森林年の関連行事として行いました。

最優秀賞には、「このままでいいのかな?」と題して、東日本大震災の巨大津波で大きな被害を受けた海岸林が、地域によっては、津波の被害をくい止めていた事実を知り、それをきっかけに、森林と人との関わりについて興味を持ち、調べていく中で気づいたこと、感じたこと等を素直に自分の言葉で書いた相模女子大学小学部4年生の藤澤ひろみさんが受賞しました。

この作文コンクールは、今後も次代を担う子供たちに森林・林業がいかに重要なものであるかを考える場として続けていくことをしています。



最優秀賞(林野庁長官賞)授与



## 幹部の紹介

5月1日付け( )は前職

森林管理署支署長

▽福島森林管理署

白河支署長

相原 慎二

(群馬森林管理署次長)